

【真室川町の概要】

(令和5年5月末現在)

○人口: **6,755** 人 ○世帯数: **2,557** 世帯

町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の鳥 「ウグイス」



◎町の音頭 「真室川音頭」



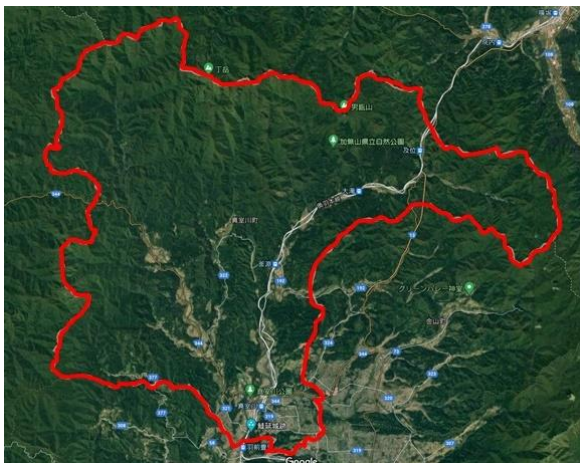
◎町の花 「梅」



◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km ²)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

【山形県神室少年自然の家】

少年自然の家は、体験をととして自然のすばらしさや神秘を感じ取るとともに、多くの仲間と同じ屋根の下で寝食を共にすることにより、心豊かな青少年を育成するために、山形県により設置された社会教育施設である。
(指定管理者：(株)ひかり)

特に真室川町に設置された神室少年自然の家では、「自然と生活と科学」を基本テーマに掲げ、時代を背負って立つにふさわしい青少年の育成を目指している。



【参考：山形県神室少年自然の家 令和5年度要覧】

【屋外施設の概要】



また、教育目標には「自然と生活と科学に関する豊かな活動体験を通じて感性を高め、いのち(自然)をつなぎ、学び(科学)を通して地域(生活)とつながる青少年の育成を図る」と掲げ、豊かな自然を活かした様々なイベントを通年で開催している。

【イベントの様子】



【山形県神室少年自然の家ホームページより】

○神室少年自然の家ホームページ <https://www.kamuro-nature.jp/>

【山形県立博物館】

山形県立博物館は、山形市の中央部に位置する霞城公園内に設置された博物館である。

館内の展示室は、以下のとおり大きく3室に分かれており、どの場面でも自力で学習できるよう、展示資料等には創意工夫が凝らされている。

【第1展示室】「豊かな自然とそのめぐみ」

山形のなりたち、森林・野鳥・昆虫等の世界を、わかりやすく展示している。世界的な発見といわれた「ヤマガタダイカイギュウ」の化石が代表的な展示である。

【第2展示室】「山形の大地に刻まれた歴史」

山形の考古資料、最上川、三山信仰、紅花等の資料を、山形の歴史が理解できるよう展示している。

【第3展示室】「近代山形くらしのうつりかわり」

文明開化から現代までのくらしの変遷、山形の焼き物・郷土玩具等の資料を展示している。また、第3展示室内の特別展示室では、催し物展(企画展)や特別展を開催している。

【山形県立博物館とmamogawajira特別展】



令和4年6月4日～8月28日の期間、県立博物館では「発掘30周年・mamogawajira、新生代の海を泳ぐ～やまがた北部の古生物～」の特別展が開催された。発掘30周年を記念して開催されたこの展示会では、mamogawajiraの全標本が公開されたほか、東北地方の主要な鯨類化石や原生鯨類の骨格標本が比較展示され、鯨たちが生きていた時代の太古の山形の姿にせまった。

また、この特別展開催に合わせ、真室川北部小学校児童による町PRポスター制作などが行われたほか、令和5年度には町歴史民俗資料館において企画展「おかえりmamogawajira展」が開催される予定となっている。

【令和5年度山形県立山形県立博物館特別展】

令和5年6月3日～8月27日の期間、特別展「Bones-生き物の骨格はどうなっているのか-」が開催されている。この特別展では、実物展示を通して普段見ることができない内部構造「骨格」の姿を見ることができ、動物の体の複雑さ、巧みさについて学ぶことができる。

【参考：山形県立博物館ホームページ】

○山形県立博物館ホームページ <https://www.yamagata-museum.jp/>



【山形県立博物館ホームページより】



【山形県立博物館ホームページより】